

策定の趣旨

①新幹線開業後の10年先さらには20年・30年先の将来を見据えたビジョンを策定。

②富山県の将来を中長期の視野に立って展望し、当面又は将来に講ずべき政策を緊要度を勘案して選択することが重要。

③本県の新しい未来を構想し、活力と魅力あふれる県、ひいては日本創生の一翼、一端を担い得る県として、次の世代に継承・発展。

現状と将来展望

◆これまで（20年、30年前）の富山県（参考資料1）
得ることができたストック

①産業基盤の発展、②文化、③グローバル化 等

◆時代潮流（メガトレンド）（参考資料2）

①人口の変化、②第4次産業革命・技術革新、
③グローバル化、④温暖化・エネルギー需給、⑤災害リスク

◆将来（20年、30年先）の富山県の展望（参考資料2）

どのような影響・効果をもたらすかの仮説

①産業・雇用、②文化、③人材、④生活
⑤北陸新幹線の大阪延伸 等

基本的考え方

◆ビジョンの視点

- ・経済と文化の相互作用
- ・第4次産業革命への対応
- ・ダイバーシティ（多様性、異分野）
- ・新ゴールデンルート（ループ）形成

◆将来像（三つの「的」、ターゲット）

- 「新たな価値創造2045」
- 「グローバル&ローカル2045」
- 「人、地域が輝く2045」

◆想定されるプロジェクト

3つの将来像を実現するため、経済、文化、人づくりに対応したプロジェクトを推進

推進体制

- 青年部会との連携
- ビジョンの進行管理

3つの将来像と展開方向

【将来像1】 新たな価値創造2045

ICTやIoTなどの技術革新、温暖化への対応、質の高い新たな文化の創造、未来社会において価値が認められる人材育成の推進など、新たな価値を創造し続ける、と同時に、守るべきものが守られている（あるものを活かす）社会

<論点>

ものづくり・新産業創出、生産性向上、起業支援、事業継承、乗都とやま、くすり製造機械の開発、デザイン、農林水産業の成長産業化、環境先端技術、再生可能エネルギー、水素エネルギー

文化芸術資源の活性化、地域文化・資源の発掘・伝承、伝統工芸・伝統芸能の振興、クリエイティブ・コンテンツ産業の振興

社会人基礎力の育成、創造性を育む教育、未来社会が求める人材研究、ICT・科学教育、小中高別の職業教育

【将来像2】 グローバル&ローカル2045

「グローバル&ローカル」の融合により、新たなイノベーション、洗練されたデザインによる新製品、新サービスがアジアの成長エネルギーを取り込み、さらに磨き上げた質の高い文化や人材などの魅力（ソフトパワー）による信頼が発信源となり、国内外から人や企業が集積している社会

<論点>

グローバル戦略、TPP、海外販路開拓、システム輸出、農林水産品輸出、人材ネットワーク、国際観光の基幹産業化、クルーズ誘致、MICE

文化芸術の国際化、文化コンテンツの海外発信、文化イベント・ツーリズム開発、TOGA、文化財の活用、ローカルブランディング

ふるさと教育とグローバル教育、英語教育、県内留学制度、偉人発掘、産業観光

【将来像3】 人、地域が輝く2045

すべての働き手のキャリアアップの環境が整備されるとともに、誰もが文化活動に参加し、才能ある多様な人材に溢れている。若者、女性、高齢者など多様な人材や地域の力が研磨され、ダイバーシティを尊重する心豊かな県民が地域の凝集力を高め、経済と文化が響きあい共生している社会

<論点>

クリエイティブ人材の創出、高度専門人材の育成確保、スペシャリスト・匠の育成、県立大学拡充、生産年齢の再定義、高齢者・女性パワーアップ

文化意識の醸成・啓発、子供たちの接触機会の促進、文化施設と学校施設との連携、クリエイター、伝承者・指導者育成、芸術・文化人が集う場、若者、女性の参加促進

地域単位のケアシステム、地域が支える健康寿命、次世代ICTインフラ、地域交通の維持、県土活用・自然環境、シェアリングエコノミー

ビジョンの展開方向

1 生産性向上と新たな価値創造の創出

労働力減少に対応した生産性向上とストックを活かした新たな需要創出を図る「とやまバリュー」の創造を目指す
【例】①ICTの活用、②エコ電源、③乗都とやまの振興 など

2 地域文化が生活に溶け込む「生活文化デザイン王国」

富山の文化的ポテンシャルを活用・発展させ、県民生活に溶け込む「生活文化デザイン王国」を目指す
【例】①文化の価値創造、②伝統文化継承、③アニメ、コンテンツ産業など

3 価値創造力を高める学校教育プログラムの確立

社会や企業が求める基礎力、イノベーションを生み出す「富山・新スタンダードの確立」を目指す
【例】①未来社会が求める人材、②キャリア教育、③イノベーション育成

ビジョンの展開方向

4 世界に存在感を示す「とやまグローバル戦略」の展開

新興国をはじめとした成長エネルギーを取り込みながら、世界で存在感を示すグローバル戦略の形成を目指す
【例】①海外販路開拓、②アセアン人材ネットワーク、③訪日外国人受入

5 世界に開かれた「とやま文化」の発信

自己認識の基点となる文化の国際化を促進し、文化と産業、文化と観光の親和性を高め、とやま文化発信を目指す
【例】①クール・トヤマの発信、②文化イベント、③文化ブランディング戦略

6 ふるさと教育とグローバル教育の融合(Think global, Act local)

学校、家庭、地域が一体となったふるさと教育(学習)を推進するとともに、グローバル化に対応した教育環境を整備
【例】①県学教育、②英語教育の活性化、③留学制度の促進

ビジョンの展開方向

7 個の力を磨き上げ、潜在力を高める人材戦略

高度専門人材の育成確保、クリエイティブ人材の創出、高齢者や女性のパワーアップなどの人的資源戦略を進める
【例】①質の高い職業人、②生産年齢の再定義、③女性パワー

8 文化芸術の力による「元気とやま」の牽引

文化の場づくりと文化の人づくりを促進し、文化の力が持つ心の癒し、生きがいづくりにより元気富山を牽引
【例】①文化意識の醸成、②文化創造の場、③文化の人づくり

9 地域(凝集力)の生産性、問題解決力の向上

地域の凝集力を高めるため、地域内での情報の密度を引き上げ、経済や文化、人づくりが響きあう地域づくりを推進
【例】①地域ケアシステム、②次世代インフラ、③地域交通、県土活用

将来像を2045年とする考え方

1. 富山県の人口減少段階（富山県人口ビジョンにおける将来展望）を見ると、

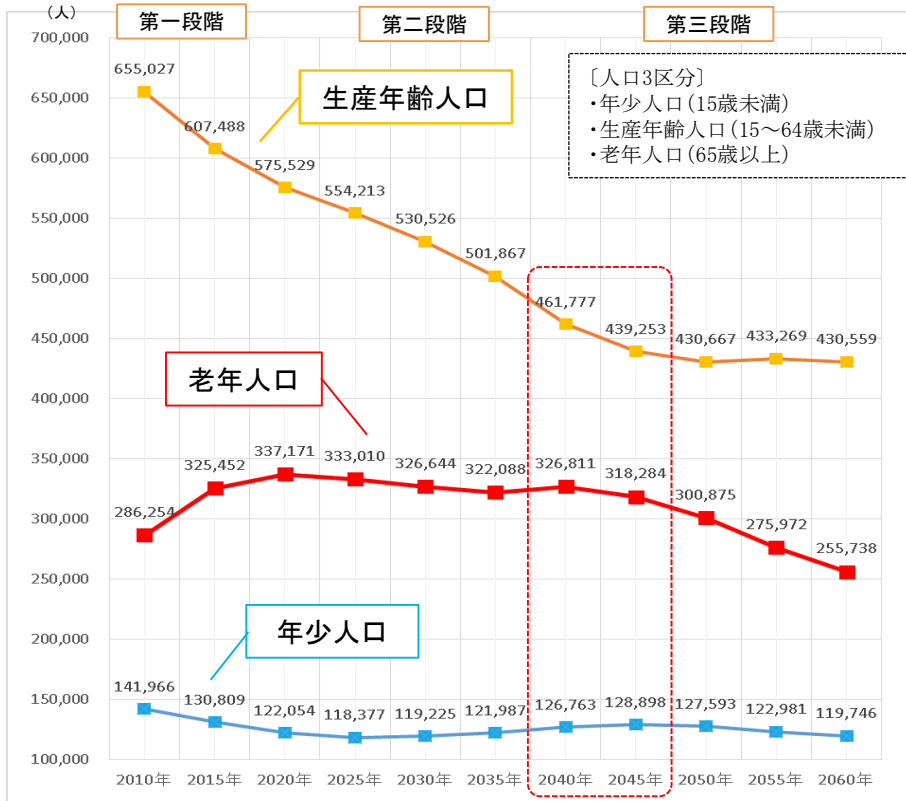
- ①2020年までは、「年少人口」及び「生産年齢人口」の減少する中で、老年人口が増加する「第1段階」
- ②その後、「老年人口」が維持・微減となる「第2段階」
- ③さらに、2040～2045年の間に、「老年人口」も減少していく「第3段階」へと進行すると見込まれている。

2. ただし、人口の構成割合を見ると、2045年頃以降、「老年人口」の割合は減少し、「年少人口」及び「生産年齢人口」の割合は増加すると見込まれている。

※富山県人口ビジョンにおける将来展望＝将来展望ケースC（若者層の社会増減改善5年間）
〔前提条件〕
○合計特殊出生率
2030年：希望出生率1.9を達成
2040年：人口置換水準2.07を達成（その後も維持）
○人口移動
～2020年：若者世代の転出超過が段階的に改善
2020年：移動均衡（その後も継続）

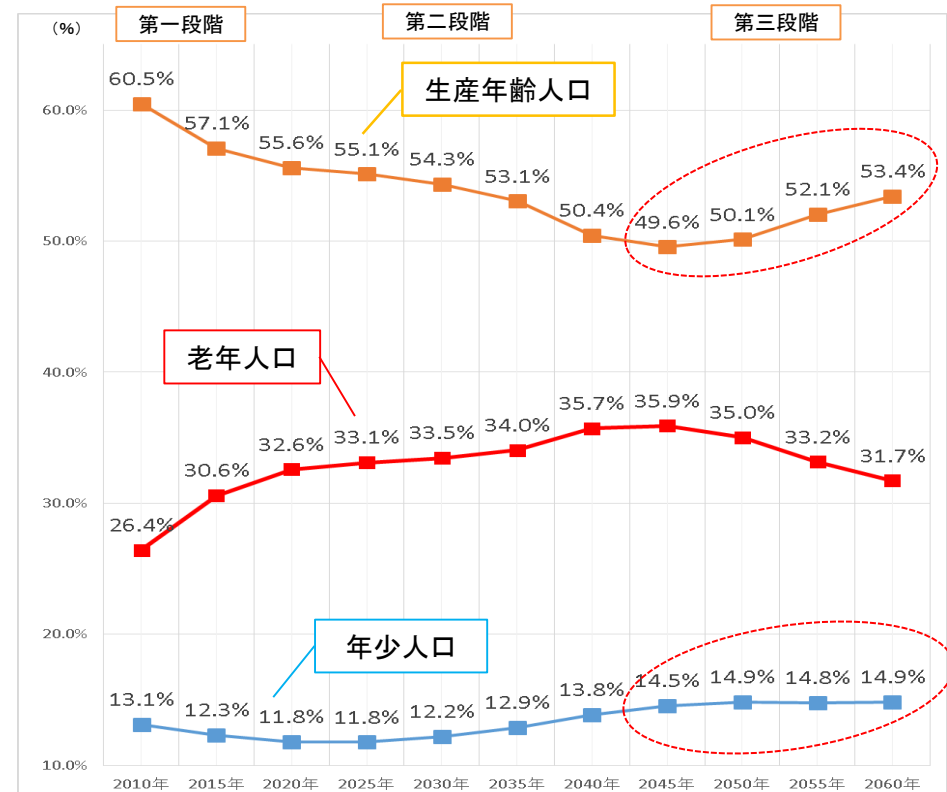
1. 総人口

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
年少人口	141,966	130,809	122,054	118,377	119,225	121,987	126,763	128,898	127,593	122,981	119,746
生産年齢人口	655,027	607,488	575,529	554,213	530,526	501,867	461,777	439,253	430,667	433,269	430,559
老年人口	286,254	325,452	337,171	333,010	326,644	322,088	326,811	318,284	300,875	275,972	255,738
計	1,083,247	1,063,749	1,034,754	1,005,600	976,395	945,942	915,351	886,435	859,135	832,222	806,043



2. 人口の構成割合

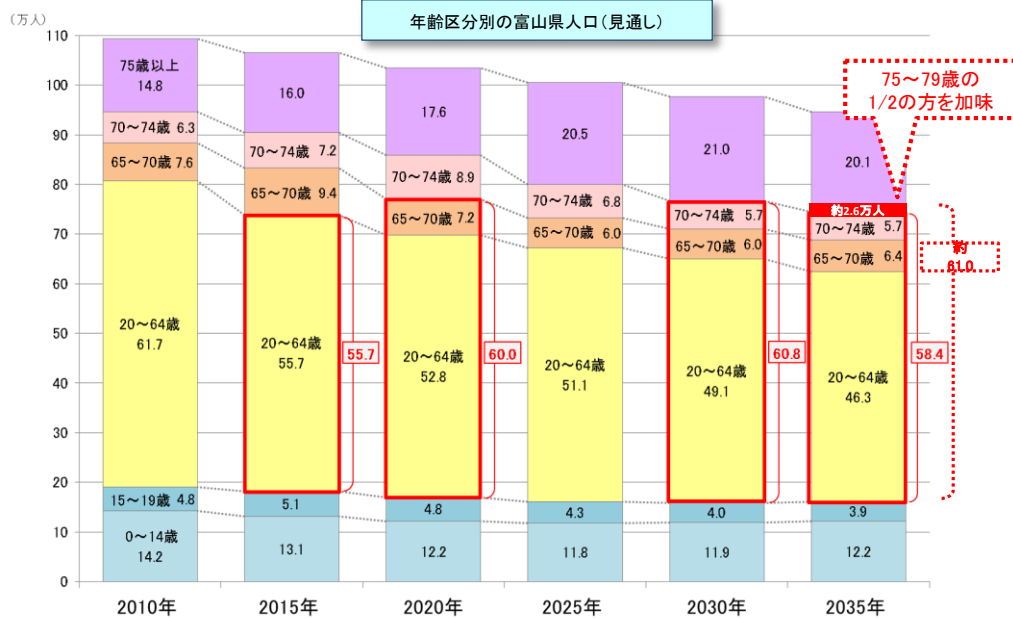
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
年少人口	13.1%	12.3%	11.8%	11.8%	12.2%	12.9%	13.8%	14.5%	14.9%	14.8%	14.9%
生産年齢人口	60.5%	57.1%	55.6%	55.1%	54.3%	53.1%	50.4%	49.6%	50.1%	52.1%	53.4%
老年人口	26.4%	30.6%	32.6%	33.1%	33.5%	34.0%	35.7%	35.9%	35.0%	33.2%	31.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



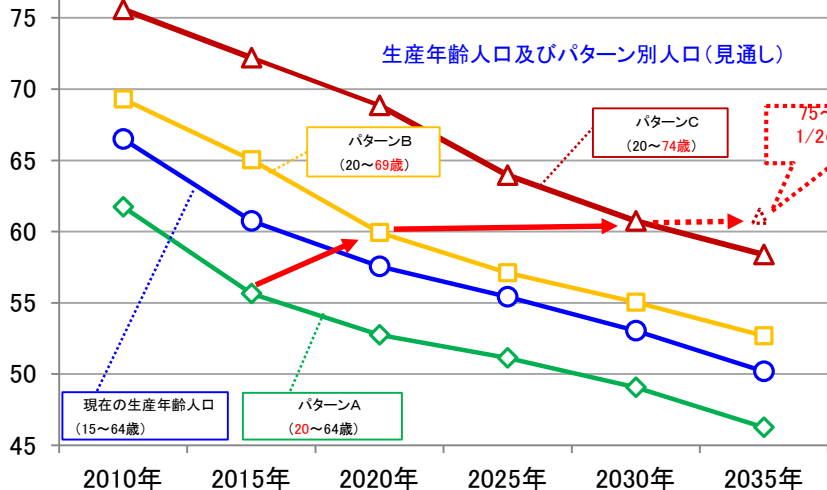
少子高齢化・人口減少社会における生産年齢人口

- ★ポイント① 生産年齢人口（15～64歳）を実態に合わせて、20歳～とすると、2015年は約56万人
- ★ポイント② 健康寿命が伸び、5年後の2020年は20～69歳としてみると、約60万人を確保
- ★ポイント③ さらにその10年後の2030年は20～74歳としてみると、約61万人を確保

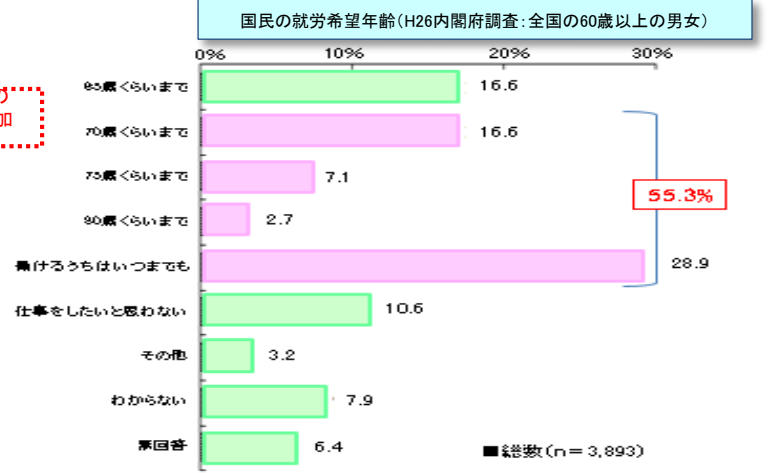
年齢区分	2010年	2015年	2020年	2030年
15～19歳	4.8万人	5.1万人	4.8万人	4.0万人
20～24歳	4.5	4.6	5.0	4.2
25～29歳	5.4	4.2	4.5	4.8
30～34歳	6.6	5.2	4.2	5.2
35～39歳	8.2	6.5	5.2	4.7
40～44歳	6.9	8.1	6.5	4.2
45～49歳	6.4	6.9	8.1	5.1
50～54歳	6.4	6.4	6.8	6.4
55～59歳	7.6	6.3	6.3	7.9
60～64歳	9.7	7.4	6.2	6.6
65～69歳	7.6	9.4	7.2	6.0
70～74歳	6.3	7.2	8.9	5.7
75～79歳	5.9	5.7	6.5	6.3



※2035年の75～79歳の人口の試算 52,750人。52,750人/2=約2.6万人

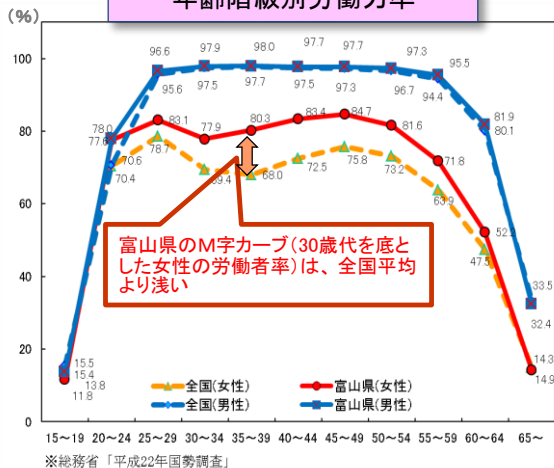


(出典) 「富山県人口ビジョン」の人口見通しのデータを活用

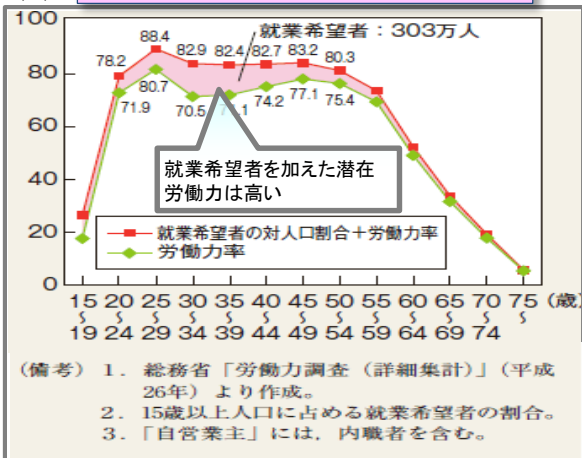


女性の就業に関する状況

年齢階級別労働力率



女性の就業希望者(潜在労働力)

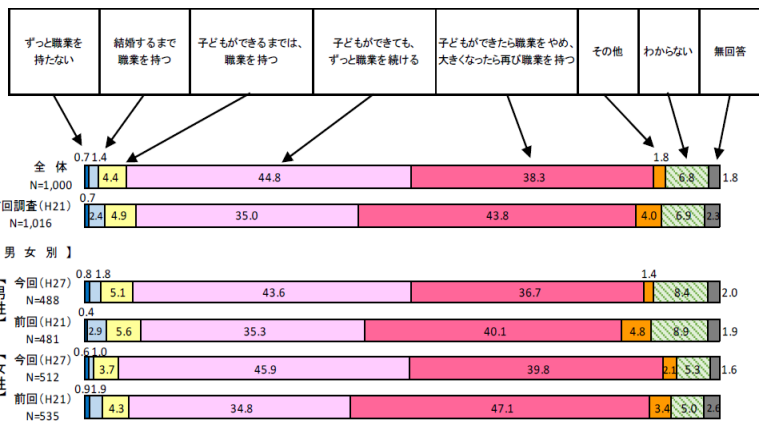


○女性の就業率は、全国が47.1%であるのに対し、**富山県は49.9%**で、**全国7位**となっている。
(H22国勢調査)

○女性の潜在労働力は、就業希望者を加えると全国で303万人であり、**女性の活躍が期待される。**

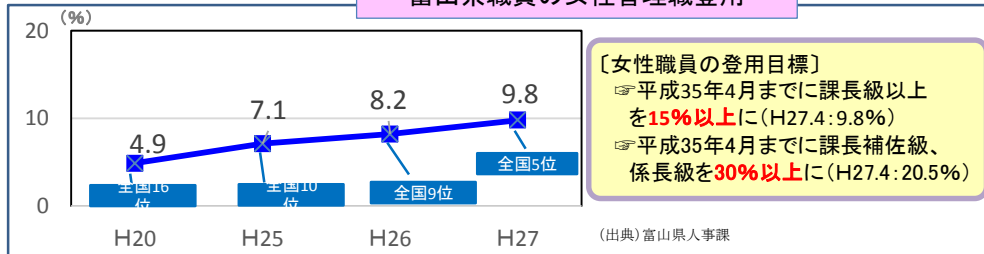
女性の望ましい働き方に関する県民の意識

(出典)平成27年度富山県男女共同参画社会に関する意識調査結果



前回調査と比べて、「子供ができてずっと職業(仕事)を続ける(ピンク)」との意見を持つ女性が**10%以上(34.8%⇒45.9%)と増えている**。
また、「子供ができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ(赤)」との意見も含めた割合も増加(81.9%⇒85.7%)し、**85%以上を占めている**。

富山県職員の女性管理職登用

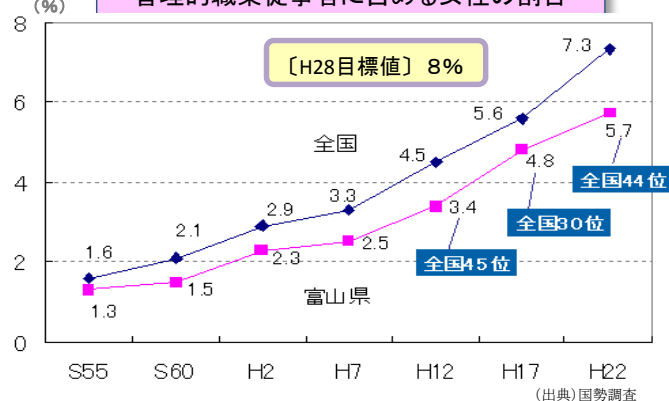


小・中・高等学校における女性校長の割合

	H27	全国順位
小学校	28.6%	4位
中学校	11.3%	3位
高等学校	7.3%	22位

(出典)富山県教育委員会

管理的職業従事者に占める女性の割合



富山県経済・文化長期ビジョン 想定プロジェクト2045(例示)

懇話会、青年部会等からの意見を集約し、長期ビジョンの将来像実現のための**具体的な構想、プロジェクトを例示**したもの。なお、「想定プロジェクト」の中には、①すぐに事業として取り掛かるもの、②まずは枠組みなどを作って事業化に移行していくもの、③すぐには取り掛からない(構想段階で)時期をみて対応するものなど、**事業の緊要度などを見極める必要がある**。

【将来像1】新たな価値創造2045

1 生産性向上
と新たな価値創造

(1) 「医薬品打錠機IoT活用開発プロジェクト」

県内中小企業のコンソーシアム(オープンイノベーション)を構築し、県立大学医薬工学科などと連携した医薬品打錠機(最終製品)の開発
「エコ電源自給率日本一プロジェクト」
小水力、地熱発電の活用、水素エネルギーの推進により、再生可能エネルギー自給率全国第三位から全国トップを目指す
「酵素を用いた次世代有用物質技術開発プロジェクト」
ERATOプロジェクトの成果を踏まえ、環境負荷の少ない酵素反応による有用物質の生産工程の実用化を図る

2 地域文化が生活に溶け
込む「生活文化デザイン王国」

(2) 「アニメ・クリエイティブ産業・人材集積プロジェクト」

コンテンツやデザインのようなクリエイティブな商品を作り発信するプレイヤーやアニメ、キャラクター等のコンテンツ産業などの集積

3 価値創造力を高める学校
教育プログラムの確立

(3) 「魅力ある新学科(県立大学、高等学校など)開設プロジェクト」

ロボット工学や複合素材、デザインなど富山県が強みとする新たな学科の創設

【将来像2】グローバル&ローカル2045

4 世界に存在感を示す「と
やまグローバル戦略」の展開

(4) 「とやまグローバル輸出拡大プロジェクト」

「富山県グローバル総合戦略」を策定し、対象の工業製品、工芸品、農水産品、外国人観光客受入、小水力等の輸出額〇〇億円を目指す
「医薬品・医療機器グローバル(アセアン)人材ネットワークプロジェクト」
「アジア医薬品・医療機器トレーニングセンター」研修生との交流等を通じたアセアン医薬人材とのネットワーク形成、わが国製薬業界との好循環

5 世界に開かれた「とやま
文化」の発信

(5) 「『演劇の聖地・利賀』を核としたグローバル舞台芸術拠点形成プロジェクト」

アジアを代表する舞台芸術の拠点「TOGA国際芸術村」を活用した地域活性化と「TOGAブランド」の世界発信

6 ふるさと教育と
グローバル教育の融合

(6) 「富山県バーチャル博物館(人と暮らしの歴史館(仮))ネットワーク構想プロジェクト」

歴史、民俗、暮らし、先人の業績、祭り・風俗などを収集保存し、県内博物館と学校教育と連携したバーチャル技術によるネットワーク化
「英語によるコミュニケーション能力を鍛える『とやまメソッド』開発プロジェクト」
ふるさと教育の教材等を英語教育に生かし、郷土を英語で伝える能力養成。「教育研修センター」での活動を通じた全国普及

【将来像3】人・地域が輝く 2045

7 個の力を磨き上げ、潜在
力を高める人材戦略

(7) 「生産年齢人口再定義(「かがやき寿命(仮称)」日本一)プロジェクト」

富山県独自の「20歳から74歳」の就業率日本一を目指し、生涯現役コンシェルジュによるサポート体制を確立する

8 文化芸術の力で「元気と
やま」を牽引

(8) 「文化スポーツ多目的アリーナ整備プロジェクト」

若者や女性をターゲットとした文化・コンサートやスポーツなどに親しむ多目的アリーナを整備し、文化的創造の場、賑わいづくりを推進

9 地域(凝集力)の生産性、
問題解決力の向上

(9) 「ソーシャルキャピタルポイント制導入プロジェクト」

健康な人ほどメリットがあるなど社会貢献に応じた「ソーシャルキャピタルポイント制」の導入